

なかしまの6月議会一般質問を受け、民間提案型市場化テストが新行財政改革プログラムに組入れられる！



いつまでも住み続けたいくなる
夢と希望の溢れる埼玉県を創造！

子育て真っ最中の
埼玉県議会議員

なかしま 浩一

県政ニュース Vol.4

民主党・無所属の会 県政報告（戸田版）

発行：民主党・無所属の会

「県政調査・IT 何でも相談室」

戸田市喜沢南 1-4-17-514
TEL/FAX 048-443-8640
携 帯 090-1653-7090
e-mail Nakashima@arscom.co.jp
http://kengi.nakashima-kouichi.com/

お気軽にご依頼下さい！
こちらから出向いて相談に応じます。
県民のみなさんの声を寄せてください。

四方山話し……

マジカルナンバー7：心理学の法則

昔の人が経験則に基づいて作ったことば
一度に記憶できる数字や記号は7つ程度が限界：ドレミは7つ、一週間は7日、8は数えられないほど多いという意味がある（八百屋）
個人差で7プラスマイナス2程度が目安？
・6つの問題（9桁2,8桁2,7桁2）を作り10秒で覚えてさらに10秒後に別紙に書くテスト
▶20代は全問できる▶30-45代は9桁8桁がそれぞれ1つ以上と7桁全部▶45-60代は8桁が1つ以上と7桁全部▶61-75代は7桁だけ▶76歳以上は7桁1つできるのが標準パターン

うなぎが幻の魚に：絶滅危惧種に指定の恐れ
世界各国で天然のうなぎ資源の減少
日本のうなぎの99%は養殖

人工的に卵から育てるのではなく、シラスウナギを大量に捕獲し、池で育てる
卵からの完全養殖成功率は0.026%
シラスウナギが最盛期の10%にまで減少
乱獲と日本人の大量摂取、ダム建設などの環境破壊、PCBなどの有害物質に弱い
欧州産も中国で大量に加工され日本に輸出

プロフィール

1961年 富山県出身
1980年 県立富山高校卒業
1984年 慶應義塾大学卒業
2002年 戸田市議会議員（2期）
現職 総合政策常任委員
循環社会対策特別委員
エコライフデイ実行委員
NPO「まち研究工房」
NPO「ITボランティアの会」
戸田第二小学校PTA会長
戸田シティ子ども会会長

平成20年度主な予算（その1）

職員定数削減

	H20	H21	H22	H23
定数削減	△160	△170	△170	△170
退職者数	約380	約320	約340	約340

地域元気アップ協働事業（1億円）

新たに設置される地域振興センターが地域の「つなぎ役」「サポート役」となって市町村をはじめとする様々な活動主体と一緒に魅力ある地域の創出、地域振興をする

知的障害者の雇用促進（74万9千円）

県庁3課で臨時職員として採用し、民間企業への就労につなげ、県内での雇用拡大の可能性を探る
NPO 元気なまちづくり助成事業（1564万6千円）
NPOが主体となって取組むまちづくりを支援し、共助意識を高めるために、ハード整備に特定した助成
交通死亡事故ゼロ大作戦事業（1753万2千円）
民生委員、母の会会員、小中高生が1グループとなって県内の高齢者世帯約30万を訪問し、交通事故防止についての啓発、防犯意識の高揚、悪質商法による被害防止の一石三鳥を目指す

埼玉県業務継続計画の策定（508万1千円）

災害時の応急・復旧対策に加え、県民生活に不可欠な業務の継続を図るため、業務の優先順位を明確化

戸田市が持続可能都市の全国3位に

日経グローバルの調査による、環境の良さと経済の活力を両立させながら生活面でも快適に過ごせる環境、経済・財政、暮らしのバランスが取れたサステナブル都市ランキングで三鷹市、武蔵野市に次いで3位に。主に財政面が大きく評価された。

県政報告

ゆとりとチャンスの埼玉プラン（'07～の5ヶ年計画）戦略Ⅳ抜粋

◎どこでも楽々行ける

- ・渋滞のない円滑な自動車交通の実現：自動車で高速道路のインターから20分以内で到達できる市町村：78.9%→目標値87.3%
重点整備箇所の混雑時平均速度：時速20Km→目標値30Km
- ・公共交通機関のバリアフリー化の推進：エレベータ設置などにより段差が解消された鉄道駅（1日平均5000人以上）56.1%→目標値100%
ノンステップバス：29%→目標値50%

◎わくわく文化・スポーツ

- ・個性のある地域文化の振興
文化芸術活動を行っている県民の割合：21%→目標値35%
- ・地域を元気にするスポーツの振興：
週に1回以上スポーツをする20歳以上の県民：34%→目標値55%
総合型地域スポーツクラブ：17→目標値71クラブ

◎環境をまもるつくる

- ・水と緑に恵まれた自然環境の保全・創造・活用：整備・保全されている森林等の面積：68,278 ㌦→目標値78,752 ㌦
緑化計画届け出制度による緑の創出面積：42 ㌦→目標値630 ㌦
森林ボランティア活動の参加企業・団体数：28団体→目標値70団体
良好な水質を維持している河川の割合：73%→目標値90%
- ・持続可能な循環型社会の構築
彩の国エコアップ宣言事業者数：406事業者→目標値1,000事業者
一般廃棄物の再生利用率：23.2%→目標値28%
産業廃棄物の再生利用率：51.6%→目標値57%
- ・快適でゆとりとにぎわいのある田園都市の創造：良好な都市基盤が整備された市街地の面積：19,100 ㌦→目標値20,000 ㌦
美しいまちなみ形成に取組んでいる地域：327→目標値450地区

戸田市でふるさと創造資金の活用

埼京線沿線の緩衝地帯である環境空間に花壇を設置
県予算3億のうち145万円交付、管理は地元のボランティアが行う

議会定例会一般質問（その4）

市町村への権限移譲による地方分権を

中島 埼玉県では、地方自治法や個別法に定められた事務の他、地方分権一括法により条例で定めることができるようになった特例制度を制定し、市町村への権限移譲を積極的に進めている。全国的にもトップレベルではあるが、埼玉県権限移譲方針が本年度で終了するにあたっての今後の展開はどうか？権限移譲の達成状況は現状75%程度になっている。県が特別交付金を受けられる財源措置も用意している中で、権限移譲が100%進まないのは、市町村の権限移譲を受け入れる体制不備、特に事務処理を行うためのマンパワーが足りないということがいわれている。

一番住民に身近な基礎的自治体である市町村が権限と財源を持ってサービスを提供することがこれからの行政サービスのあり方である。3年間の権限移譲方針が終了するにあたって、県から市町村への権限移譲による分権を更にすすめていくために、県や我々議員の存亡に関わる道州制を睨みどのような方針で挑むのか？

知事 環境やまちづくりの分野など専門的な職員確保が難しい事務では、職員の派遣や研修など人的な支援を行っても移譲が進まない。市町村の意見も聞きながら、市町村が担うにふさわしい事務の拡大、人的・財政的支援のさらなる充実で県と市町村の二重行政の解消を図る。国に対しても権限移譲を求めている県では「まず、隗より始めよ」の諺どおり、県より市町村への権限移譲を進める。

教員の数や質の確保

中島 本県は予想を上回る退職者がでている。団塊世代の大量退職に備えて2002年度から計画的に採用をしており、20代の教員を多く抱えている。採用計画について新卒者に的を絞ると年齢構成バランスも益々問題になる。採用試験では、教育の質を確保するため、倍率が3倍以上になるよう目指しているが、小学校教員採用試験においては昨年度3.4倍と低い倍率となった。県内外での教員募集説明会や県外会場での1次試験の実施、大学での教員募集説明会、県内大学との連携で教員養成セミナーなどに取り組んでいるが、さらなる取組が必要ではないか？

他県の教員経験者からの中途採用や免許を持たない民間企業経験者からの採用を増やすことで、数の確保とともに質の確保を行うべきだ。また、県立高校に教員養成コースを設置して、高校時代から先生になりたい生徒を養成して、地元教員を増やす施策をとれないか？

教育長 高校生を対象に高校に出向いて説明会を開き、教員の魅力、県の求める教員、待遇や教員採用試験の概要を説明することで、人材確保に努める。

民主党市議会議員候補公募予定

来年1月の市議会議員選挙で立候補される方を5月1日より公募する予定。
我こそはと思われる方々の応募をお待ちします。（詳しくは上欄連絡先まで）



平成20年度戸田市関連予算

1. 晴れの日が多い埼玉県の特色を生かした太陽光発電の普及促進

- (1) 戸田公園に出力20Kwのモデル施設で地域住民・NPOと連携したセミナーなどを開催
- (2) 小中学校等への太陽光発電設備の設置に2分の1補助
- (3) 県内事業者による0.90(保証付)～1.2%超低利融資による2億円の特別枠で導入支援
2. スーパー堤防上部の運動施設設計（元は野球場、これから市役所やレク団体の意見を聞いて内容決定）、競艇場の護岸整備
3. 荒川左岸南部流域下水道終末処理場整備
上部基盤整備、自家発電、7号水処理、重力濃縮槽など9案件で総額46億16百万
4. 県道整備、河川整備
(1) さくら川の整備に併せて辺見橋付近拡幅工事、平成24年度完成を目指す。
(2) 練馬川口線：早瀬付近で切削オーバーレイ、下前付近でバリアフリー歩道整備
(3) 菖蒲川、笹目川で動植物のモニタリング調査、平成23年度まで継続